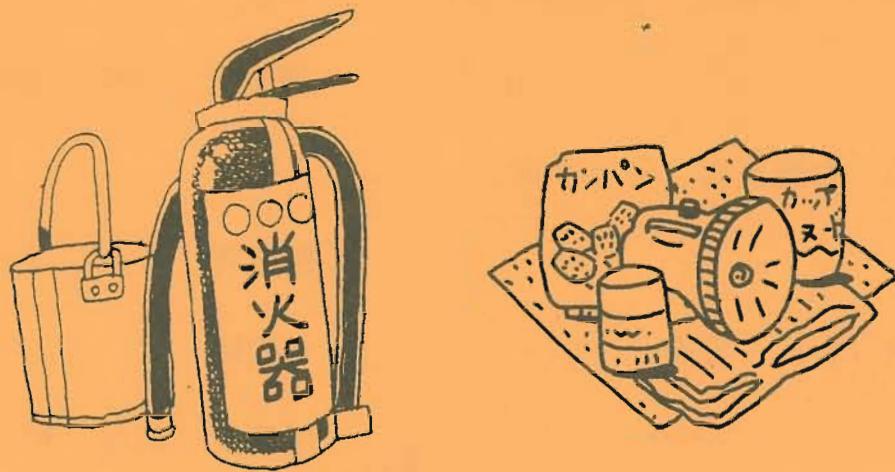


平成19年度

防災フェスタIN五本木

災害安全学習指導案



平成19年9月22日（土）
目黒区立五本木小学校

- 1年1組「ひなんリュックをつくろう」 3校時
授業者 来栖 雅彦
- 1年2組「ひなんリュックをつくろう」 3校時
授業者 八木亜矢子
- 2年1組「じしがおきたら」 2校時
授業者 大波多美穂
- 2年2組「ひなんのしかた」 2校時
授業者 相庭 朋子
- 3年1組「地震に備えて」 2校時
授業者 竹内 千晶
- 4年1組「台風災害と身の守り方」 3校時
授業者 岸本 博和
- 4年2組「台風災害、身守り隊」 3校時
授業者 神吉 孝子
- 5年1組「台風と安全」 4校時
授業者 高塚 純一
- 6年1組「ぼくの街に地震がきた」 2校時
授業者 西島能婦子
- 6年2組「緊急地震速報」 2校時
授業者 和田 正典

ひなんリュックを つくろう

1組 21名 指導者 末栖 雅彦
平成19年9月22日（土）

1 題材設定の理由

災害の報道などにより、子どもたちは、避難生活では食料・水・日用品などが不足し日常生活に困ることを知識として持ちつつある。しかし、災害にあっていない子どもたちは、それほど切実なものとして考えてはいないかもしれない。そこで、日常からいざという時のために、非常持ち出し品の入ったリュックを準備しておくとよいことを意識付けさせたい。

ここでは、「避難リュック」を作り、一時的に避難しても生活できるような工夫をさせたい。

2 本時の学習

(1) ねらい

○災害に備えて、日頃から準備することにより、自分の身を守ろうとする。

(2) 展開

学習活動	支援 (○) 評価 (★) 留意点 (・)
 1 災害に備えて、家で準備していることを話し合う。 ・食料品・避難リュック ・日用品・水など	○それぞれの家庭で準備していることを自由に話させる。 ○長持ちする食品や安全確保に必要な物がいることに気付かせたい。
ひなんリュックをつくろう	
2 避難リュックの中にどんな物を入れたらよいかを考える。 ・懐中電灯 ・お金 ・あめなど	○ひなんリュックの中に詰めておくとよい物を考える時、生活に必要であるか、持ち出せる重さかなどのヒントを与えるようにする。(意見が出てこない場合)
3 「ひなんリュック」の中に絵や言葉を書き入れる。 ・水 ・缶詰 ・かんぱんなど	○ひなんリュックの中に書ききれない場合は、周りに書いてよいようにする。 ・自分が大切にしているもので持って避難したい物も書かせるようにする。
4 避難リュックを家のどこにおいておくか考える。 ・玄関のところ ・自分の部屋	○すぐに持ち出せるところに置くとよいということをヒントとして与える。(意見が出てこない場合)

ひなんリュックを つくろう

2組 21名 指導者 八木 亜矢子
平成19年9月22日（土）

1 題材設定の理由

災害の報道などにより、子どもたちは、避難生活では食料・水・日用品などが不足し日常生活に困ることを知識として持ちつつある。しかし、災害にあっていない子どもたちは、それほど切実なものとして考えてはいないかもしれない。そこで、日常からいざという時のために、非常持ち出し品の入ったリュックを準備しておくとよいことを意識付けさせたい。

ここでは、「避難リュック」を作り、一時的に避難しても生活できるような工夫をさせたい。

2 本時の学習

(1) ねらい

○災害に備えて、日頃から準備することにより、自分の身を守ろうとする。

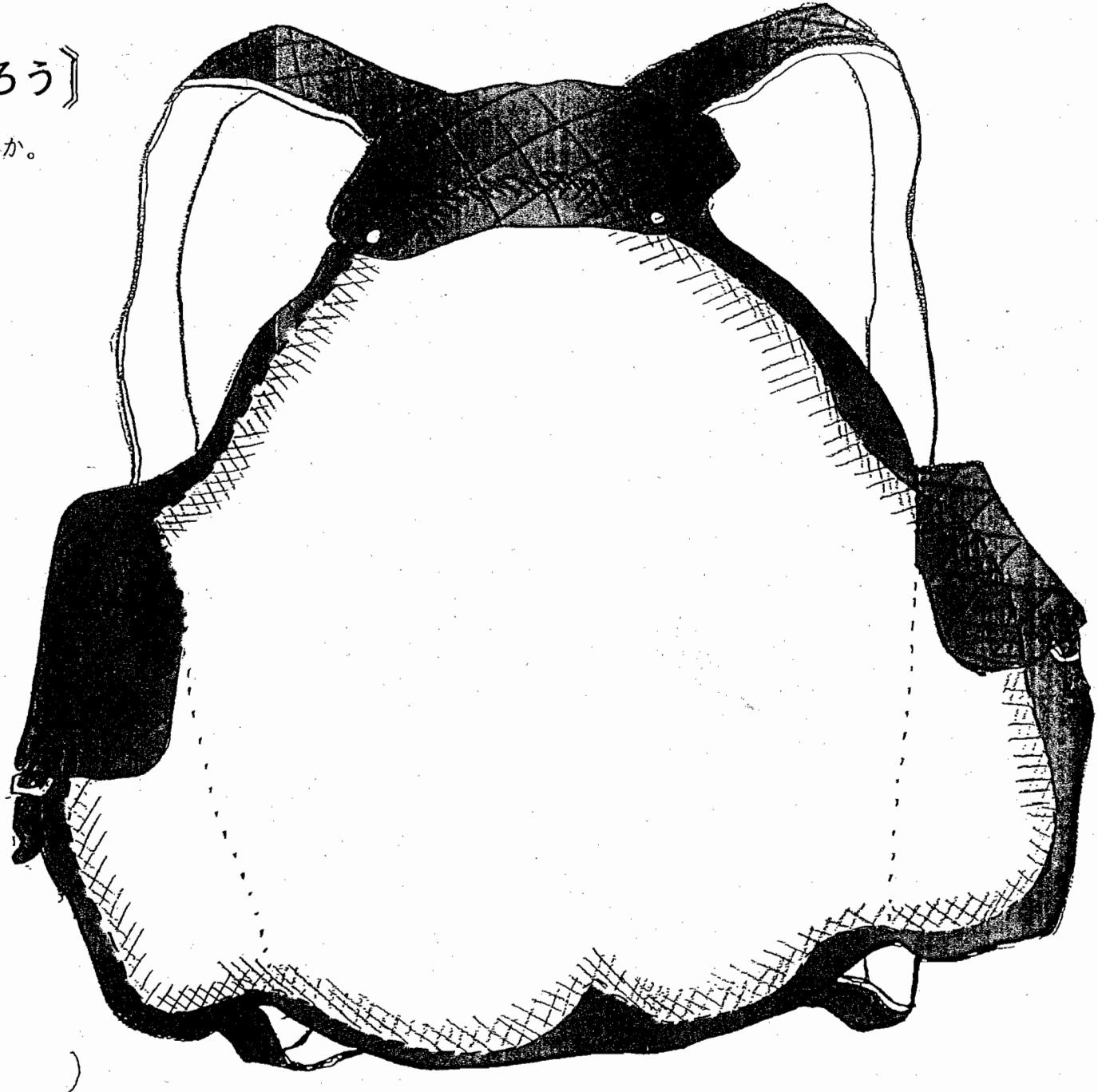
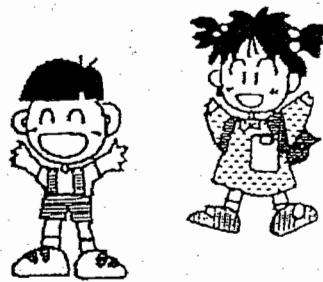
(2) 展開

学習活動	支援（○）評価（★）留意点（・）
 1 地震が起きたら、どうなるかな。 ・水が使えなくなる ・ガスがでなくなる ・電気が消えるなど	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの家庭で準備していることを自由に話させる。 ・長持ちする食品や安全確保に必要な物がいることに気付かせたい。 ・家の人们にも参加をしてもらい、親子で災害に備えることの大切さに気付いてもらいたい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;"> ひなんリュックをつくろう </div>
2 避難リュックの中にどんな物を入れたらよいかを考える。 ・かんばん ・缶詰 ・水など ・救急箱	○ひなんリュックの中に詰めておくとよい物を考える時、生活に必要であるか、持ち出せる重さなどのヒントを与えるようにする。（意見が出てこない場合）
3 「ひなんリュック」の中に絵や言葉を書き入れる。 ・水 ・缶詰 ・かんばんなど	○ひなんリュックの中に書ききれない場合は、周りに書いてよいようにする。 ・自分が大切にしているもので持って避難したい物も書かせるようにする。
4 避難リュックを家のどこにおいておくか考える。 ・玄関のところ ・ベッドの下	○すぐに持ち出せるところに置くとよいということをヒントとして与える。（意見が出てこない場合）
	★自分の身を守るために、日頃から災害に備え準備しようとしているか。 【関心・意欲・態度】

【ひなんリュックを作ろう】

どんなじゅんびをしておくといいですか。

絵やことばで書いてみましょう。



1ねん くみ
なまえ()

じしんがあきたら

1組 24名 授業者 大波多 美穂
平成19年9月22日(土)

1. 題材設定の理由

子どもたちは、避難訓練・不審者訓練などをくり返し行っていることを通して安全に対する意識はかなり高まっている。しかし、アンケートの結果をみると、地震などが起きた時に一人でいる時や家族とはぐれた時の待ち合わせの場所について話している家庭は、必ずしも多いとはいえない。この授業を通して、将来、子どもたちが出会うことが予想される震災に備えて、家族での話し合いの時間をとること、また、避難場所の確認や安全な環境づくりなど、家庭でも考えるきっかけになればと考え、この題材を設定した。

2. 本時の学習

(1) ねらい

- いろいろな状況で、地震が起きた時の自分の命の守り方を考える。
- 家族との連絡方法について考える。

(2) 展開

学習活動	支援(○) 評価(★) 留意点(・)
1 絵本を読み、自分の命の守り方を考える。 (場面ごとに考える) <ul style="list-style-type: none"> 一人で通学路を歩いている時 一人で家でいる時 一人で学校にいる時 友達と公園にいる時 スーパー・マーケットにいる時 海にいる時 	・『じしんのえほん こんなときどうするの?』 国崎信江作 福田岩緒絵 ポプラ社 ○クイズ形式で質問しながら、自分だったらどうするかを考えさせる。 ★自分の考えを発言することができる。(関心・意欲)
2 家族との連絡方法について考える。	○自分たちにできる連絡方法を考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> 親の携帯電話・自宅に電話する。 学校に電話して、居場所を伝える。 自宅の玄関に置き手紙をはる。 災害用伝言ダイヤル171を使う。 ★連絡方法について考えることができる。(思考・判断)
3 連絡が取れない時のことについて考える。	○どうしても連絡がとれない時には、待ち合わせの場所を決めておくことは大切だという事について知らせる。 <ul style="list-style-type: none"> サバイバルカードを配布し、家族と話し合うよう促す。
4 いろいろな状況で地震が発生した場合にどう行動したら良いかまとめる。	★自分の意見をまとめることができる。(表現)

ひなんのしかた

2組 24名 指導者 相庭 朋子

1 題材設定の理由

毎月、火災や地震、防犯などへの対応のための避難訓練を行っている。しかし、子どもたちの中には、まだ、その災害などへの意識が低い子どもも見られる。そこで、防災フェスタIN五本木の機会を生かして、もう一度避難訓練のあり方を確認し、「自分の命は自分で守る」ために、行わなければならない行動とはどのようなものかを考えること、また、迅速な避難訓練が徹底できるように、この題材を設定した。

2 本時の学習

(1) ねらい

- 「お・か・し・も」の約束を守って、正しい避難の仕方を学習する。
- 防災ヘルメットの正しい使い方を確認する。

(2) 展開

学習活動	支援 (○) 評価 (★) 留意点 (-)
1 なぜ避難訓練をするのでしょうか。	○崩壊したフロック塀・鳥居などの写真を提示する。 ひなんくんれんで気をつけなければならないことを考えましょう。
2 避難訓練の練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・机の下にもぐる。 ・ヘルメットをかぶる。 ・静かに並ぶ。 ・「お・か・し・も」を守る。 <ul style="list-style-type: none"> ・日頃の避難訓練を思い出させる。 ○崩壊したフロック塀・鳥居などの写真を提示する。 ○地震時の効果音のテープを流す。 <p>○ヘルメットは、上からの衝撃に強い。頭を守る。 日常的に帽子をかぶるように促す。</p>
3 通学路で危険な箇所を確認する。	<p>★これまでの避難訓練を思い出し、正しい避難の仕方を理解している。 【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動販売機 ・マンホール ・塀 <p>これらの危険箇所についてはなす。</p>
4 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、避難訓練で、どのように行動するかについて発表する。 <p>・地震後は、危険なので道路の端は、歩かないことを促す。</p> <p>★防災ヘルメットの正しい使い方や正しい避難の仕方を考えている。 【思考・判断】</p>

地震に備えて

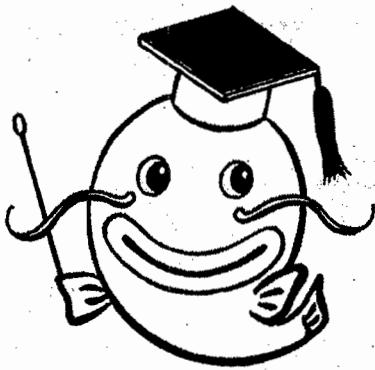
1組 25名 指導者 竹内 千晶

1 本時のねらい

- 地震のおそろしさを知り、過去の教訓を学びながら避難の仕方を理解させる。
- 地震発生時に備えて具体的に取り組もうとする態度を養う。

2 展開

学習活動	支援 (○) 評価 (★) 留意点 (-)
1. 大きな地震が発生したときの教室の危険性について話し合う。 ・学級文庫 ・窓ガラス ・蛍光灯	・教室における様々な危険箇所や危険な状況について話し合い、どのような危険が発生するのかを考える。 ★危険だと思われる場所を見つけている。【思考・判断】
	危険な場所はどこかを考えよう
2. 家庭での危険性について話し合う。 ・家具 ・テレビ	○絵や写真を見て、地震による被害の大きさなどを具体的にとらえるようにする。(『地震と安全』P1, 2参照) ★自分の家の危険な場所を見つけている。【思考・判断】
3. 家の中の安全な場所や避難の仕方について考える。 【ワークシートに記入】	○避難の約束「おかしも」を確認する。 (『地震と安全』P3参照) ・普段の避難訓練と関連付けながら火災による被害とその際の避難の方法について考えることができるようとする。 ○煙が発生したときの危険、避難方法を確認する。(ハンカチの使い方) ★火災の際の避難の仕方を理解している。【知識・理解】
	家でのひなんの仕方を考えよう
4. 学校外での避難の仕方を考える。 ・171について ・家人との集合場所 ・学校への連絡(安否情報)	○登下校や家での避難の仕方を考えさせる。 ○家の対策を考えさせる。(『地震と安全』P6参照) ★自分の問題として考えている。【関心・意欲】
	自分ができることを考えよう
5. 地震後にできるボランティア活動を考える。	○避難場所などで共同生活する時に、自分にできることを考えさせる。 ・体験談を紹介することにより思いやったり、支え合ったりすることが大切であることもおさえる。



じしんにそなえて

いのち まも
—自分の命は自分で守る—

年 組

1 表紙の絵を見て考えましょう。

- ① 机の へ もぐる。
- ② 両手の机の をしっかり持つ。
- ③ をとじて、先生の指示や を待つ。
- ④ の そばには近づかない。

ほうそう
口・下・足・まどガラス・放送

2 『おかしも』のやくそくを守るのは、なぜでしょう？

おさない

かけない

しゃべらない

もどらない

3 ①家の人がはなればなれになった時の集合場所

れんらくばしょ はな しんもの ちじん
連絡場所 (少し離れた親類や知人のところなど)

どこ

-----※家の人と話し合って書きましょう。-----

②わが家の防災の日 ○ 月 ○ 日

住所

電話

台風災害と身の守り方

1組 22名 指導者 岸本 博和

1 本時のねらい

- 自然災害の多い日本で暮らすわたしたちが、ふだんから心得ておくことについて考える。
- 台風の中でもっとも身近な強風（暴風）から身を守る対策をたて、身の守り方を知る。

学習活動	支援(○) 評価(★) 留意点(-)
1 日本のおもな自然災害の絵を見て感想を出し合う。 ・土砂災害は石や土が上から落ちてくる。 ・台風は毎年きている。 ・雪崩や凍結は目黒区ではほとんどない。 ・地震はいつおこるかわからない。 ・二次火災は地震のときにおきる。 ・津波や高潮は海の近くではもっともこわい。	・“災害大国”日本に住んでいることを意識させ、防災を心がける必要性を知らせる。 ★災害の多さを知り、関心をもっている。
2 台風のメカニズムを知る。 (1)台風の一生 発生期 発達期 最盛期 衰弱期 進路と大きさ・強さ (2)強風から身を守るには もうすぐ台風がくるという設定の絵を見てコメントを考える。 《家の中にいるとき》 電気・ガスは 食料は ガラスなど割れるものは 風でとばされそうなものは ねるときは 台風情報は	・教師の説明で「台風ってなんだろう？」の基本的な定義を教える。 ・強風（暴風）台風による被害を最小限にとどめるには、生活の中でチェックするポイントを見つけさせる。 ○観点がはっきりするよう災害時の家の中の絵を提示する。 ○グループで相談して書いた吹き出しを絵に貼り具現化をはかる。 ★台風にそなえて事前対策を立てている。
3 《外にいるとき》台風の強風におそれたらどうやって身を守るかを考える。	・いざというとき、とっさの判断が命を左右することを知らせ、緊張感をもってねらいに迫る。 ★台風災害での身の守り方を考えている。

台風災害、身守り隊！

2組 22名 指導者 神吉 孝子

本時の学習

(1) ねらい

○自然災害の多い日本で暮らすわたしたちが、ふだんから心得ておくことについて考える。

○台風の中でもっとも身近な強風から身を守る対策をたて、身の守り方を心得る。

(2) 展開

学習活動	支援 (○) 評価 (★) 留意点 (-)
1 このあいだの台風を思い出し、台風について知っていることを話し合う。	・“災害大国日本”に住んでいることを意識させ、日ごろより防災を心がける必要性を知らせる。
2 ビデオを見る。 強風による被害の大きさを知る。	★強風被害のすさまじさを知り、関心を持っている。
台風（強風）からの身を守りたい！ 身守り隊を結成しよう！	
3 台風だ！さあ、どうする？ 《 室内にいる時 》 ・電気・ガスは ・食料は ・緊急持ち出し袋は ・台風情報は ・植木は 《 屋外にいる時 》 ・かさが ・車が ・看板が ・木が ・ブロックペイが ・物が	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の家の中の絵と屋外の絵を提示する。 ・被害を最小限にとどめるためには、生活の中でチェックするポイントをみつけさせる。 <p>○グループで相談して書いた吹き出しを絵に貼り、具体化をはかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難勧告が出て家にいることができない状態になる場合があることを知らせる。  <ul style="list-style-type: none"> ・室内身守り隊から屋外身守り隊へのメッセージ ・屋外身守り隊から室内見守り隊へのメッセージ
3 まとめ ・カードに、今後注意しようと思うことを書き、貼る。	<p>○自己管理の大切さを促す。</p> <p>★身を守る視点で危険回避の方法を理解している。</p>

台風と安全

1組 33名

担任：高塚純一

1. 課題設定の理由

- ①台風は夏から秋にかけて日本列島に近づき、各地に大きな被害を与える。
- ②つい最近も、東京地方に大きな被害をもたらした台風の記憶は新しいものである。
- ③台風の被害を学び「自分の命は自分で守る」ことの大切さを知ることも大事であると考え、この題材を設定した。

2. 本時の学習

台風の災害を知り、自分で安全を守るにはどうするかを考える。

(1) ねらい

- 台風災害のこわさを知る。
- 身近な台風の被害を考えて安全に行動できるようになる。

(2) 展開

学習活動	支援（○）評価（★）留意点（・）
1 台風9号の被害を知る。	・台風9号のニュースで覚えていることを発表させる。
2 台風とはどんなものか知る。	・「防災もの知りノート」の資料で台風を知る。
3 台風の被害を知る。 風・雨・土砂くずれ	・プリントで台風の被害を確認する。
4 先生の子ども時代の体験を聞く。	○昔の台風の被害体験を話す。 河川の増水、床上浸水、屋根が飛ぶ
5 東京に台風が来たらどんな災害となるか考える。	★台風被害をしっかり確認できているか。 水害、看板、電線、電車
6 自分で台風から身を守るにはどうしたらしいか考える。	★自分として安全確保を考えることができている。 情報を知る 河川に行かない 風対策
7 学習のまとめをする。	★台風の被害と安全対策を理解する。

ぼくの街に地震がきた！（国崎 信江著）

1組 24名 授業者 西島 能婦子

1. 単元の目標

- 「ぼくの街に地震がきた！」を通して、地震のこわさをイメージし、そこからどのようにして命を守るかを考える。
- 地震後の避難所生活でのボランティア活動を通して、人と人が共に助け合うことの大切さを知り考える。

2. 本時の学習

(1) ねらい

- 「ぼくの街に地震がきた」を読み、地震の実態を知ることができる。
- 避難所生活では、人と人が助け合うことが大切である。その場所で自分たちに何ができるかを考えることができる。

(2) 展開 (1/4)

学習活動	留意点
<p>1 学習のめあてを知る。</p> <p>○地震後の写真を見て話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地震後の写真を用意する。 <p style="text-align: center;">一番心に残ったところを発表しあい、みんなで考えよう</p>
<p>2 「ぼくの街に地震がきた」を読んで感想をもち話し合う。</p> <p>○感想を書く。</p> <p>○一番心に残ったことや場面の感想を発表する。</p> <p>○地震について日ごろから考えていることなどについて話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読む時間を制限することを知らせる。 ・保護者の方にも本を読んでいただく。 ・読み終えた子からワークシートに感想を書かせる。 ・読んだところまでの感想をできるだけ多くの児童に発表させる。 ・保護者の方も一緒に考え、話し合いに参加していくように声をかける。 ・いざという時を考え、日頃から備えておきたいものや家族で話し合っていることなどを考えさせる
<p>3 次時の予告</p>	<p>次回は</p> <p style="text-align: center;"><地震災害ワークショップをする></p> <p>ことを知らせる。</p>

緊急地震速報

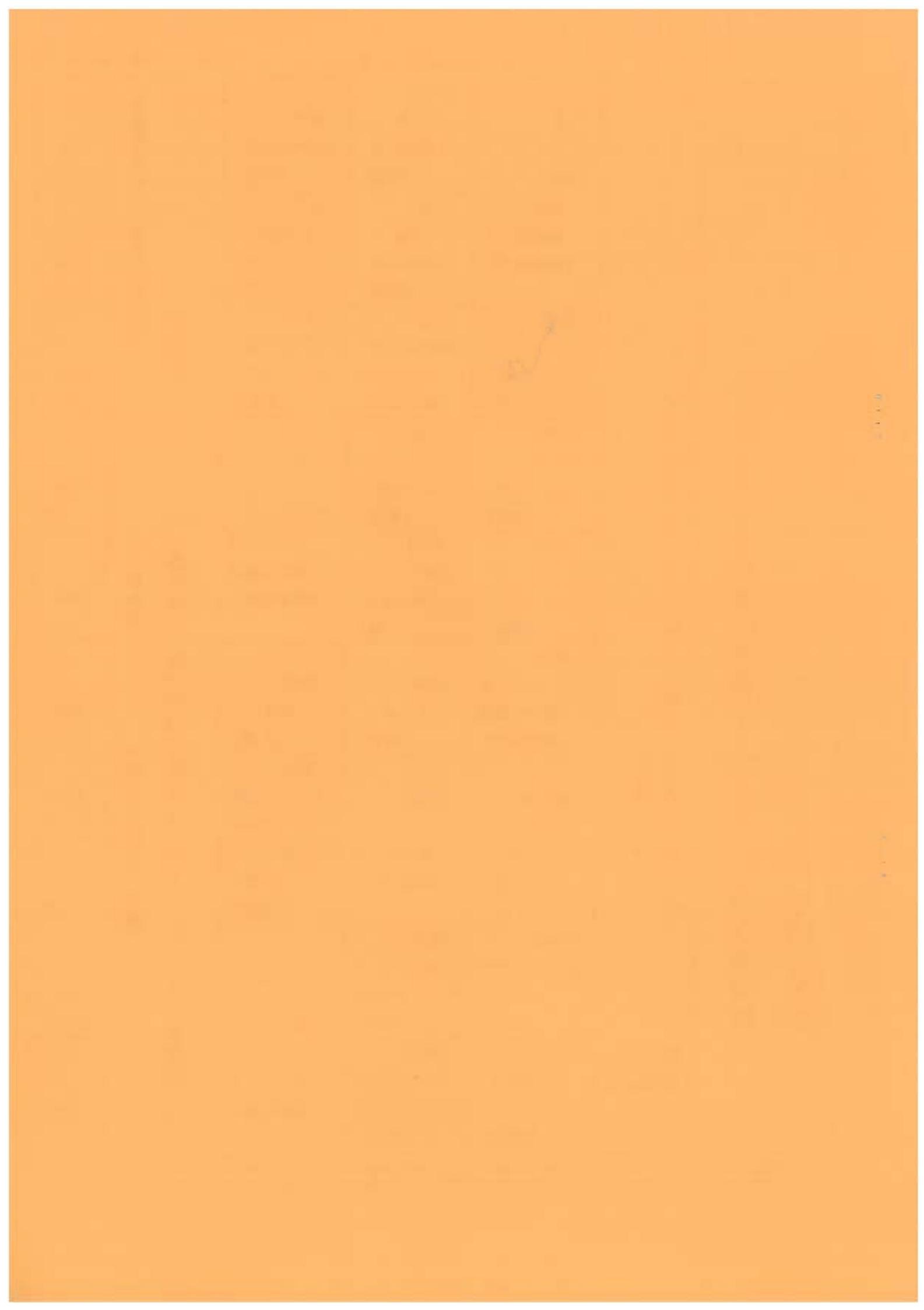
2組 24名 指導者 和田 正典

(1) ねらい

- 緊急地震速報について知り、避難の方法を考える。
- 自分の身は自分で守ろうとする意識を高める。

(2) 展開

学習活動	支援 (○) 評価 (★) 留意点 (-)
1 地震の揺れがくる前に地震がくることを知らせるシステムがあることを知る。	○中越地震や能登半島沖地震でシステムが活用されたことを確認する。
2 緊急地震速報について知る。 緊急地震速報のビデオを観る	○10月1日からスタートする緊急地震速報について確認する。 ・P波やS波などについて簡単に説明する ○どういう場所で速報が聞けるか確認する。
3 緊急地震速報があるとどんなことができたか発表する。 ◇ 家 ◇ たくさん人が集まる場所 ◇ 病院 ◇ 工事現場 ◇ 道路（登下校時など）	○速報が流れることで防げる被害について確認する。 ○場面に応じて、どのように対応するか考える。
緊急地震速報を聞いて、避難の方法を考えよう	
4 緊急地震速報が学校に導入されたときの自分たちの行動を考える ◇何に気を付けて数秒間行動したのか発表する。	○実際に緊急地震速報を流し、避難させる。 ○緊急地震速報のよさに気付き、より有効な時間の使い方について考ようとする気持ちをもたせる。 ★避難方法について真剣に考えている。 【思考・判断】
5 学校で想定される場面の避難方法について考え、発表する ◇ 給食配膳時 ◇ 清掃時 ◇ 休み時間	○ワークシートに記入させる。 ○様々なケースを想定し、考えさせる。
6 今日の学習を振り返る ◇ わかったことや感じたことを発表する。	○ワークシートに記入させる。 ○情報を受け取ったときでも、慌てずに行動することが大切であることを説明する。 ★緊急地震速報を知り、自分の身は自分で守る意識を高めることができる 【知識・理解】



9月22日(土)

	1校時(8:50~)	2校時(9:40~)	3校時(10:50~)	4校時(11:40~)	14:00~
1の1 末柄			【学活】 ひなんリュック をつくろう (教室)	【国語】 大きなかぶ 音読発表会 (教室)	
1の2 八木		【防災訓練】 煙ハウス他 (校庭)	【学活】 ひなんリュック をつくろう (教室)	【算数】 10より おおきいかず (教室)	下校時間 13:45頃
2の1 大波多		【学活】 地震がおきたら (教室)	【防災訓練】 煙ハウス他 (校庭)	【算数】 長さ (教室・ 学習室)	
2の2 相庭		【学活】 地震がおきたら (教室)			◎十三時三十分より、音楽室で合唱団のリハーサルを行います。 どうぞ、ご参観下さい。
3の1 竹内		【総合】 地震 (教室)	【算数】 かさ (教室)	【防災訓練】 起震車体験 煙ハウス (校庭)	
4の1 岸本		【防災訓練】 起震車体験 煙ハウス (校庭)	【総合】 台風の時の 安全 (教室)	【算数】 さいころを作ろう (教室)	
4の2 神吉			【総合】 台風の時の 安全 (教室)	【算数】 さいころを作ろう (教室)	
5の1 高塚		【国語】 人とのものとの 付き合い方 (教室)	【防災訓練】 消火器訓練 (AED訓練) (校庭)	【総合】 台風と安全 (教室)	
6の1 西島		【総合】 ぼくの街に 地震がきた (教室)	【国語】 詩や短歌を 味わおう (教室)	【防災訓練】 消火器訓練 AED訓練 (校庭)	
6の2 和田		【総合】 緊急地震速報 (教室)	【国語】 詩や短歌を 味わおう (教室)		

学校説明会(ミーティングルーム)

説明会の前に、五本木小合唱団の演奏を行います。

*防災訓練に参加した方には、アルファ米と乾パンの提供があります。